

2013年9月26日

報道機関各位

調査レポート











グラフで見る東海経済 (2013年9月)

【今月の景気判断】

東海経済は持ち直しが一服している。海外景気の回復を背景に輸出は持ち直し傾向が続いているものの、自動車の増産が一服し、設備投資も非製造業を中心に伸び悩んでいる。個人消費は、高額品の好調が続き、緩やかに持ち直しているが、賃金の持ち直しは緩やかであり、消費者マインドも低下傾向となっている。公共投資は国・地方とも発注額が増加しているほか、住宅投資も消費増税前で持ち直し傾向が続いている。

今後は、世界経済の回復とともに輸出の緩やかな持ち直しが続くと思われる一方で、自動車の生産水準が低下すると見込まれる。高額消費は好調だが、消費者マインドは低下しており、消費全体では頭打ちも懸念される。雇用・所得環境への波及も鈍く、景気持ち直しの一服が続く可能性が高い。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	→		↗
個人消費	↗		→	輸入	→		→
住宅投資	↗		↗	生産	↘		→
設備投資	→		→	雇用	→		→
公共投資	↗		↗	賃金	↗		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シェード部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～米中景気の先行き、米国の金融緩和縮小の模索にともなう株価の先行き、TPP交渉の行方
- ・企業活動～設備投資の企業規模や業種における広がり、消費税率引き上げと追加経済対策、米中向け輸出
- ・家計～雇用・所得環境改善の広がり、食品・エネルギー等の物価上昇、株価水準が消費に与える影響

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

調査部 [名古屋] エコノミスト 内田俊宏

〒461-8516 名古屋市東区葵1丁目19-30

TEL: 052-307-1106

【各項目のヘッドライン】

項目	8月のコメント	9月のコメント	ページ
1．景気全般	持ち直している	持ち直しが一服している	3～4
2．生産	減少している	減少している	5～7
3．雇用	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	7～8
4．賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9
5．個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	10～11
6．住宅投資	持ち直している	持ち直している	12
7．設備投資	増加している	増加が一服している	12～13
8．公共投資	増加基調で推移	増加基調で推移	13
9．輸出入	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	14～15
10．物価	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇	15
11．金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	16
12．倒産	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少	16

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

（＊）参考資料：「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
1．景気全般

7月の東海3県の鉱工業生産は、前月比＋3.1％と3ヶ月ぶりに上昇したが、直近のピークの4月の水準からは低下している。4～6月期の設備投資は増加ペースが大きく低下した。

7．設備投資

4～6月期の東海4県の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比＋1.3％と2四半期連続で増加したものの、ほぼ横ばいにとどまった。製造業は前年比＋10.1％と5四半期連続で増加したが、非製造業は前年比－7.0％と減少した。

9．輸出入

7月の実質輸出（季調済）は、前月比－6.3％と2ヶ月ぶりに減少したが増加傾向は続いている。8月の名古屋税関管内の輸出額は、前年比＋14.3％と8ヶ月連続で増加した。

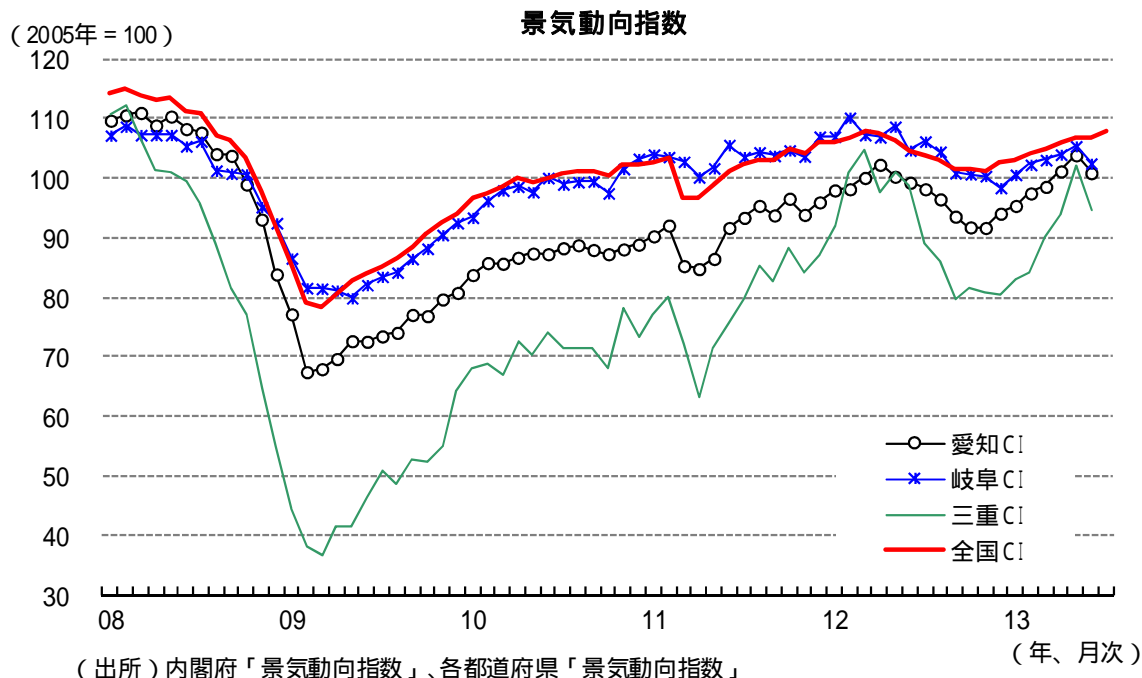
【主要経済指標の推移】

経 済 指 標		12 4-6	12 7-9	12 10-12	13 1-3	13 4-6	13 7-9	13 10-12	13 3	13 4	13 5	13 6	13 7	13 8
景気全般	景気動向指数 愛知（C I、一致指数）	100.6	96.1	92.5	97.2	102.0			98.6	101.2	103.9	100.9		
	岐阜（C I、一致指数）	106.8	103.9	99.8	102.0	104.0			103.1	104.0	105.4	102.5		
	三重（C I、一致指数）	99.1	84.9	80.9	85.8	96.9			90.1	93.7	102.2	94.7		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI）	48.2	42.1	39.6	52.8	54.5			56.1	57.1	54.5	51.9	52.4	51.5
	（先行判断DI）	48.6	42.2	44.8	55.4	55.4			55.4	57.2	56.4	52.7	53.2	52.0
	短観業況判断DI（大企業製造業）	5	5	-17	-3	7			13<9月予想>					
	（中小企業製造業）	-10	-5	-15	-22	-11			-5<9月予想>					
生産	（非製造業）	0	-5	-6	-2	2			2<9月予想>					
	法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	0.5	0.4	0.4	0.5	1.1								
	非製造業(兆円)	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2								
	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	-0.2	-8.5	-5.4	9.9	4.3			-0.5	6.6	-0.3	-7.1	3.1	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	0.6	-8.1	-4.6	10.2	3.3			-1.2	4.7	1.7	-6.9	2.2	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	6.3	2.4	-3.2	-4.6	1.6			0.4	1.9	-2.7	2.8	0.2	
	鉱工業生産 輸送機械（ " ）	2.7	-12.5	-10.1	17.5	6.5			-5.4	16.3	-5.1	-11.4	1.6	
	一般機械（ " ）	-0.1	-7.8	-6.5	0.5	6.0			-0.9	5.0	6.2	-7.7	3.0	
	電子部品・デバイス工業（ " ）	-3.9	-16.7	28.3	2.2	14.0			8.3	15.8	-1.1	-8.2	18.3	
	プラスチック製品工業（ " ）	4.9	-8.3	-2.8	5.2	3.2			-1.9	4.0	1.8	-5.4	2.2	
	化 学（ " ）	1.9	1.5	-1.7	7.3	-1.8			8.3	-6.5	-4.9	1.7	4.3	
	電気機械（ " ）	3.8	-6.2	-5.1	7.0	-1.5			-0.6	-2.3	3.9	-5.9	4.1	
	鉄 鋼（ " ）	1.2	-8.8	-8.2	10.6	4.4			0.9	3.7	-1.0	-1.7	-8.3	
	金属工作機械受注 総受注（億円）	334.6	332.4	286.6	290.0	322.5			292.3	268.6	338.3	360.5	327.6	
	国内受注（億円）	105.4	96.9	79.0	80.4	93.8			86.2	85.9	85.0	110.4	100.3	
	海外受注（億円）	229.2	235.5	207.6	209.6	228.7			206.1	182.7	253.3	250.1	227.3	
雇用	大口販売電力量	6.9	-1.0	-4.2	-6.3	-1.7			-6.1	-4.0	-0.1	-1.2	0.7	
	完全失業率（原数値、%）	3.8	3.2	3.3	3.4	3.5								
	就業者数（原数値、万人）	761	768	768	762	773								
	常用雇用指数 愛知	99.6	100.0	100.4	99.4	100.1			98.9	100.0	99.9	100.3		
	岐阜	99.6	99.6	99.5	98.7	99.0			98.4	99.0	99.1	98.9		
	三重	99.9	98.8	98.8	96.8	97.8			96.7	97.8	97.8	97.9		
	有効求人倍率 愛知（季節調整値、倍）	1.19	1.15	1.1	1.16	1.3			1.20	1.26	1.30	1.33	1.35	
	岐阜（季節調整値、倍）	1.01	0.99	0.9	0.98	1.1			0.99	1.05	1.07	1.09	1.09	
	三重（季節調整値、倍）	0.95	0.90	0.8	0.89	1.0			0.90	0.93	1.02	1.04	1.05	
	新規求人倍率 愛知（季節調整値、倍）	1.85	1.66	1.7	1.85	2.0			2.02	2.09	1.92	2.10	2.11	
資金	現金給与総額	-0.2	-1.4	-1.6	-0.5	1.2			-0.3	1.1	0.1	1.9		
	所定内給与	-1.2	-1.3	-1.3	-0.1	0.8			0.0	1.1	0.3	1.0		
	所定外給与	21.7	2.0	-5.5	-4.0	-0.4			-5.9	-2.2	-1.0	2.0		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入 勤め先収入	0.4	-5.2	1.3	5.7	6.6			7.4	5.8	1.5	10.6	-1.1	
個人消費	定期収入	1.6	-4.4	-4.2	3.5	-0.4			4.4	2.1	-0.8	-2.7	-3.0	
	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出	-4.2	1.8	-5.9	11.8	2.7			26.9	4.3	-2.5	6.6	-2.8	
	百貨店販売額（名古屋市内）	-7.2	0.8	0.6	3.6	7.8			6.5	2.8	9.9	10.5	-0.1	9.5
	百貨店＋スーパー販売額（名古屋市内百貨店除く）	0.8	-2.0	0.0	-2.4	1.1			2.6	0.0	0.0	3.2	3.7	
	コンビニエンスストア販売額	2.7	-0.7	-1.5	-1.4	0.3			1.0	-1.3	0.2	1.9	0.7	
	新車登録台数（含む軽）	74.2	14.7	-4.2	-10.4	-9.0			-12.6	3.4	-8.9	-17.4	-8.9	
	家電販売額	-28.1	-15.0	-5.8					-1.4	-7.8	-2.0	14.3	-10.9	
	消費者態度指数（一般世帯、原数値）	41.3	39.3	38.0	43.7	46.3			45.2	45.4	47.0	46.4	45.2	44.1
	トヨタ国内生産台数（季節調整済、万台）	30.6	28.5	24.6	29.2	29.5	27.2	24.9	28.3	31.1	30.0	27.3	27.8	26.3
住宅投資	新設住宅着工戸数（季節調整済年率換算、千戸）	97.4	104.0	105.9	105.2	114.7			105.3	110.0	111.7	122.3	120.0	
	（前年比、%）	-0.9	-10.2	16.7	8.4	18.1			4.8	12.2	8.6	32.6	21.4	
設備投資	法人企業統計設備投資（製造業）	19.4	11.2	0.9	12.3	10.1								
	（非製造業）	20.5	1.9	-15.6	17.9	-7.0								
	企業立地件数	-	-	-	-				11	18		17		
公共投資	公共工事請負額	10.5	8.5	15.4	-4.5	6.5			-4.3	9.3	27.5	-8.9	45.8	15.2
輸出入	実質輸出（季節調整済、07/12=100）	90.5	85.1	80.8	82.5	87.4			80.8	86.9	86.7	88.7	83.2	
	通関輸出（金額ベース、円建て）	30.6	-0.3	0.2	6.7	10.9			2.4	10.6	11.1	11.1	13.5	14.3
	実質輸入（季節調整済、07/12=100）	104.4	107.5	93.1	95.2	97.3			90.7	97.0	100.8	94.2	95.4	
	通関輸入（金額ベース、円建て）	6.5	2.1	-0.9	5.7	6.7			-4.5	8.0	9.5	2.3	8.9	8.7
物価	消費者物価指数（除く生鮮）	0.3	0.1	0.0	-0.3	-0.1			-0.5	-0.5	-0.2	0.2	0.4	
	（食料及びエネルギーを除く総合）	-0.3	-0.4	-0.4	-0.7	-0.3			-0.8	-0.5	-0.3	-0.2	-0.1	
金融	国内銀行預金残高	2.5	1.9	1.6	1.1	1.6			1.0	1.2	1.9	1.6	1.8	
	国内銀行貸出残高	0.4	-0.6	-0.6	0.0	1.6			0.7	0.7	2.2	2.0	1.7	
倒産	倒産件数	-8.7	22.2	-20.3	-8.9	-12.5			21.7	-11.3	-17.7	-7.4	23.4	-33.7

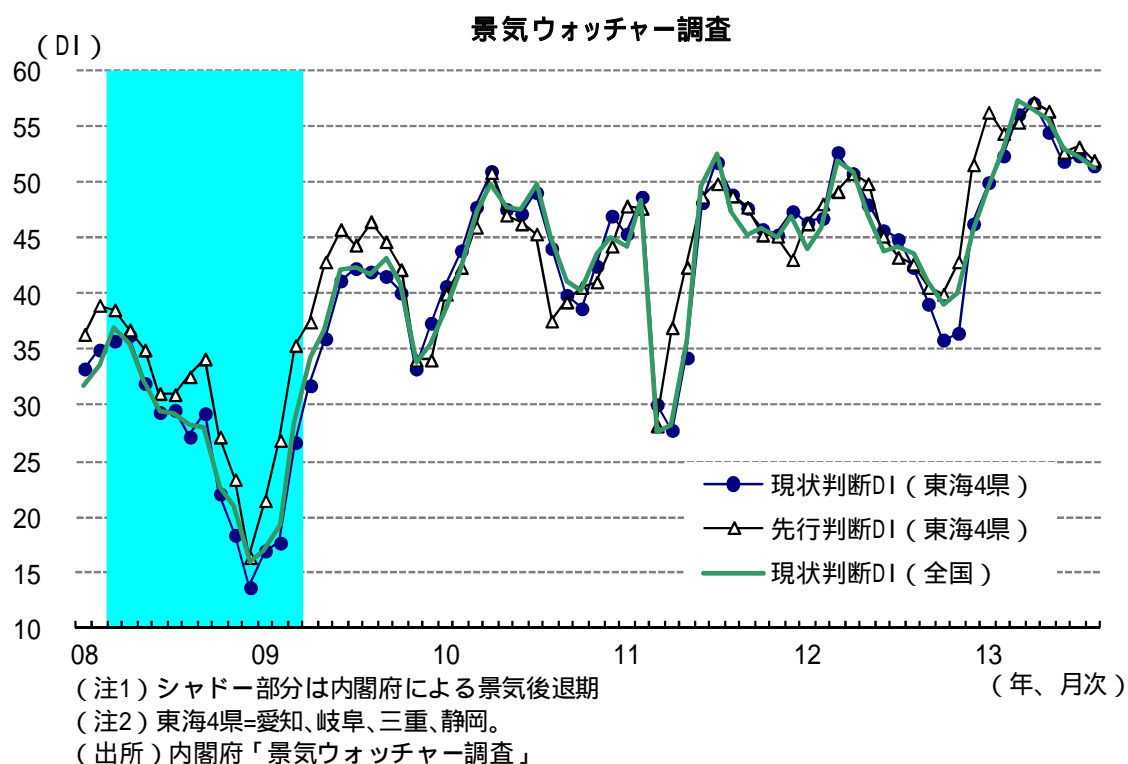
（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ～持ち直しが一服している

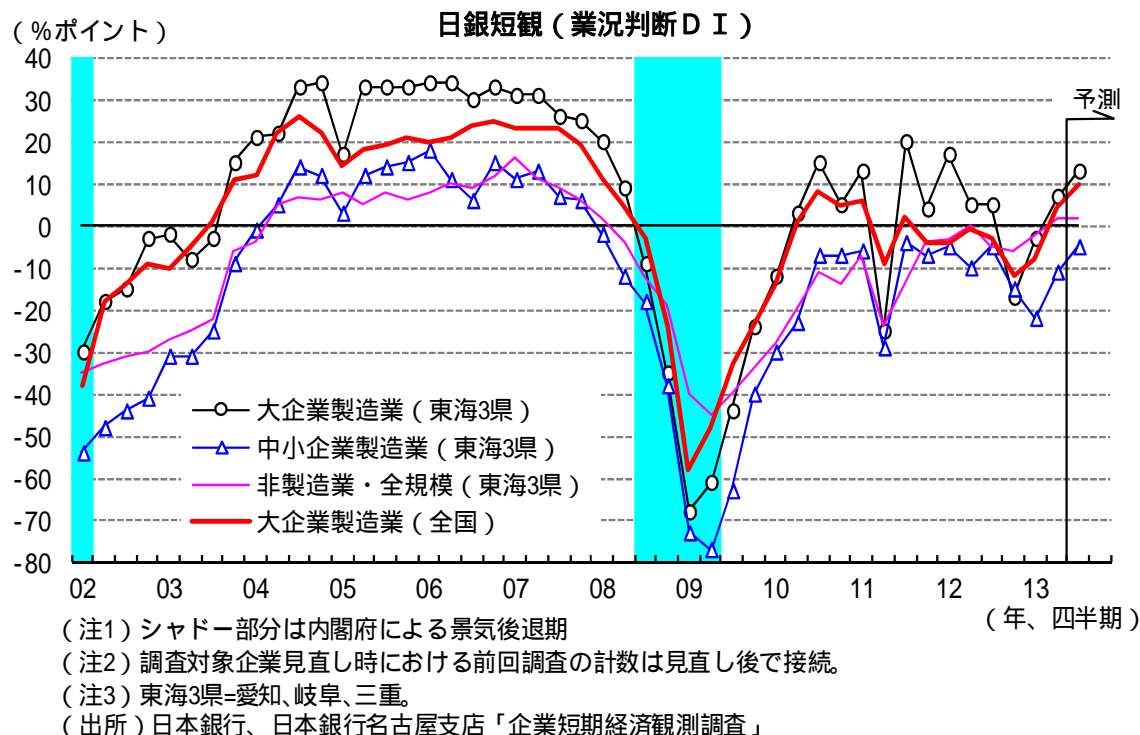
6月の東海3県の景気動向指数・C I一致指数は、愛知県が8系列のうち6系列でマイナス寄与となり、7ヶ月ぶりの低下となった。岐阜県と三重県も6ヶ月ぶりに低下した。東海3県ともに鉱工業生産指数の低下が影響した。先行指数も、愛知県、三重県、岐阜県ともに低下している。



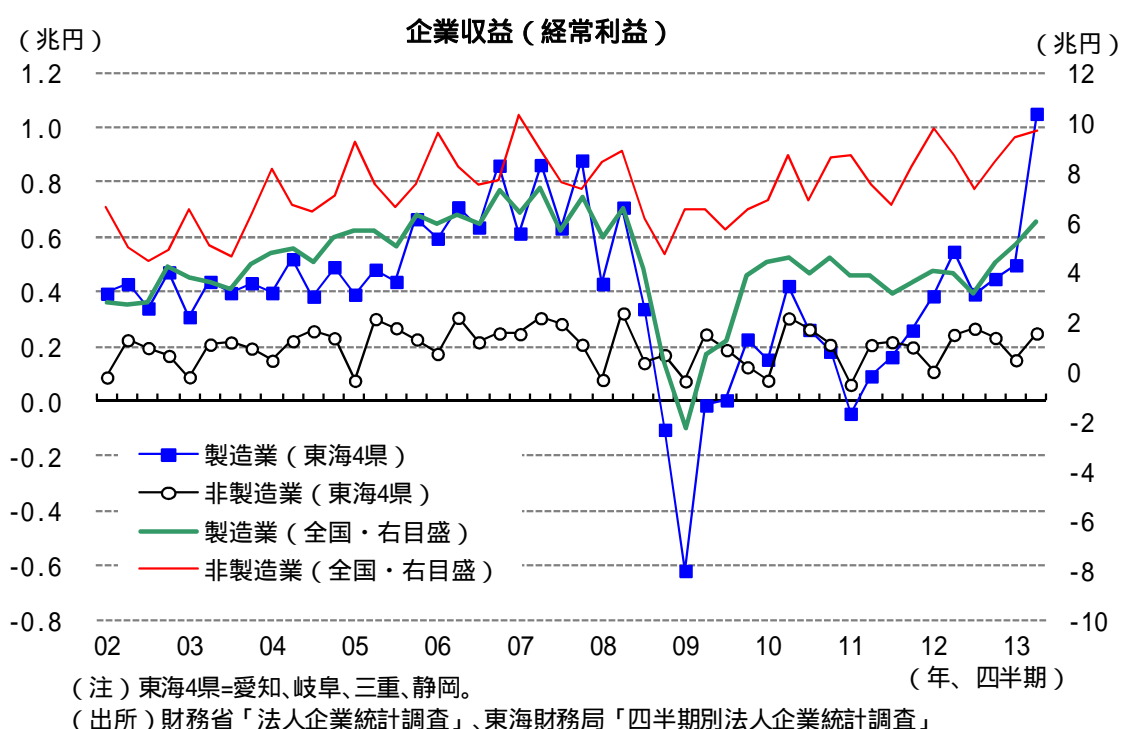
8月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DIは前月差 - 0.9ポイントと2ヶ月ぶりに低下した。家計動向関連の現状判断DIも同 - 0.3ポイントと2ヶ月ぶりに低下している。東海4県の先行判断DIは、同 - 1.2ポイントと2ヶ月ぶりに低下し、先行きに対する期待感は一服している。



日銀短観 6月調査では、東海3県の大企業製造業の業況判断D I (「良い」-「悪い」)は+7と、前回3月調査から10ポイント改善した。中小製造業も-11と前回調査から11ポイント改善した。業況判断D Iの9月予測は、大企業製造業が+13、中小製造業が-5と、それぞれ6ポイントの改善が見込まれている。

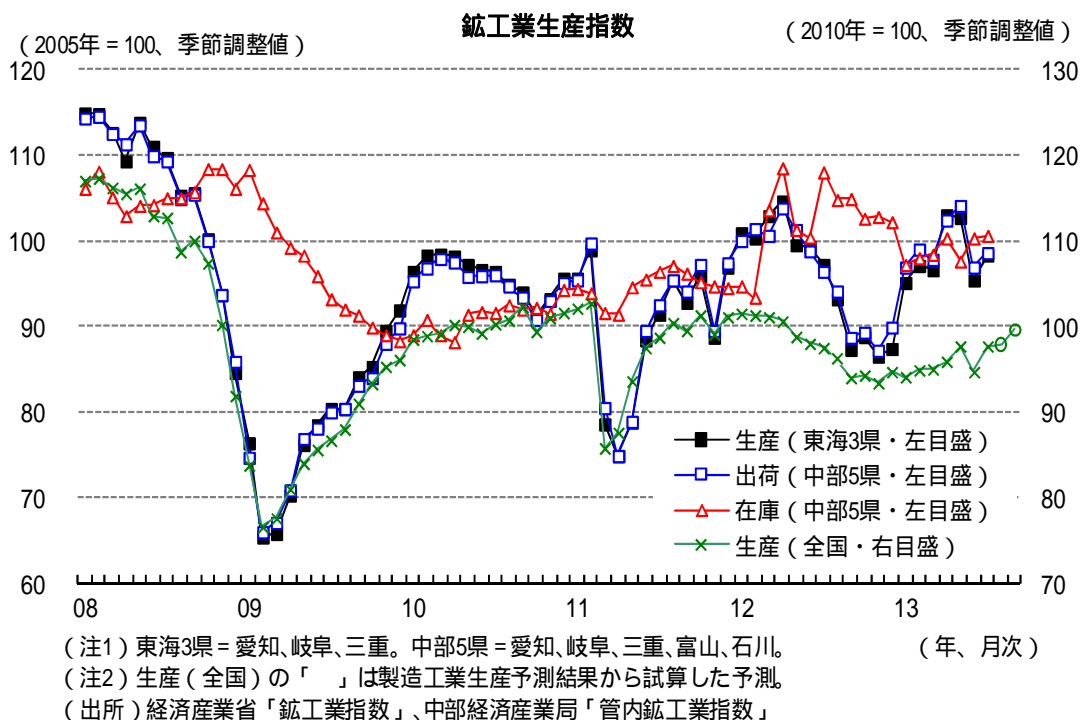


2013年4～6月期の東海4県の企業収益（経常利益、製造業）は大幅な増益となり、リーマンショック前のピーク（07年10～12月期）の水準を上回った。非製造業も前年同期比で増加した。13年度上期の業績は円安・株高に加え、米国や東南アジア向けの輸出が堅調に推移したため、改善が続いている。ただし、トヨタの生産（季調済）が13年4月をピークに減少しており、収益への影響が懸念される。

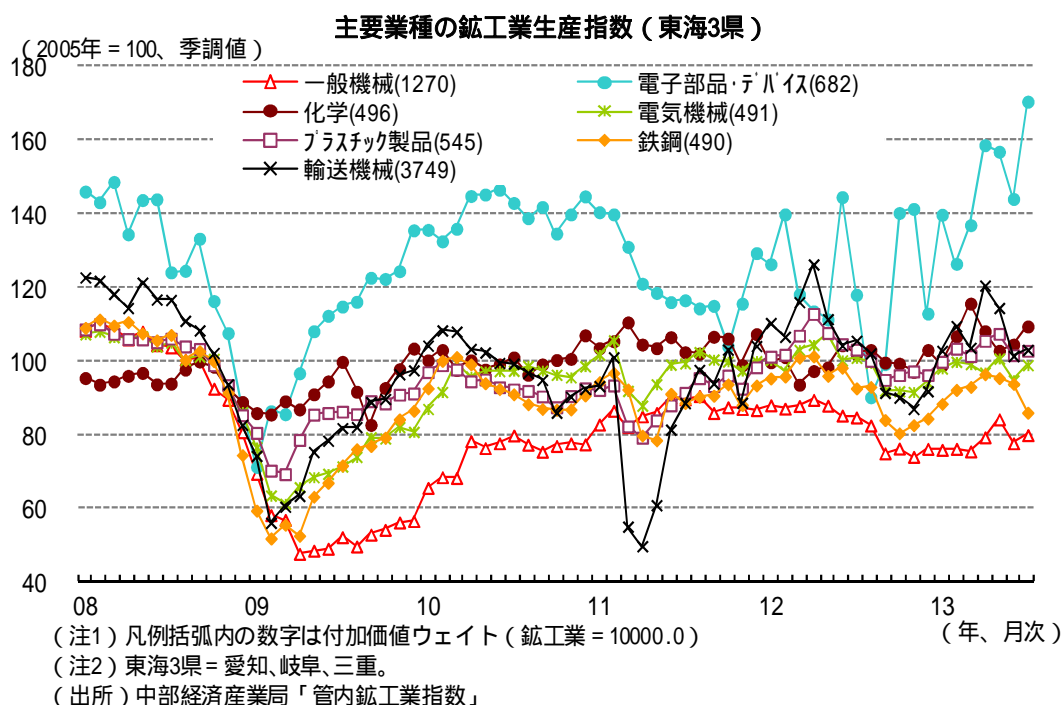


2. 生産 ～減少している

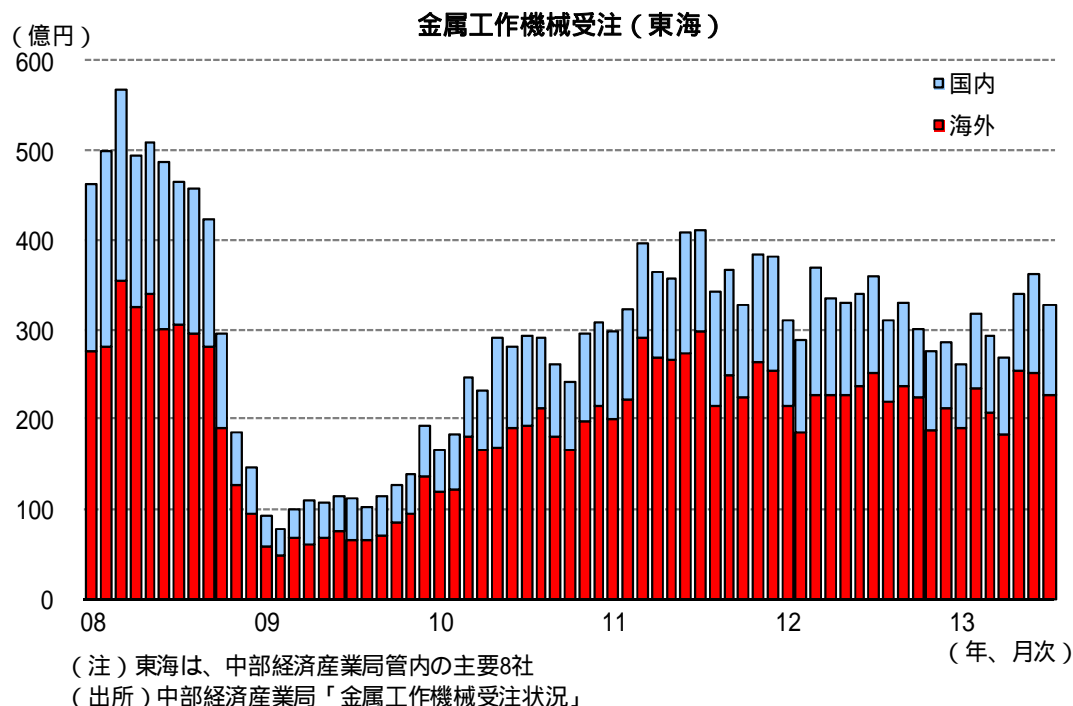
7月の東海3県の鉱工業生産指数は、自動車（前月比+0.9%）や航空機部品（同+15.6%）などの生産増加の影響により、前月比+3.1%と3ヶ月ぶりに上昇した。先行きは、米国向け輸出が底堅く推移するとみられる一方、季節調整をかけたトヨタの国内生産計画は（P.11 下図参照）、年内は低水準で推移する見通しで、鉱工業生産全体でも弱めに推移する可能性が高い。



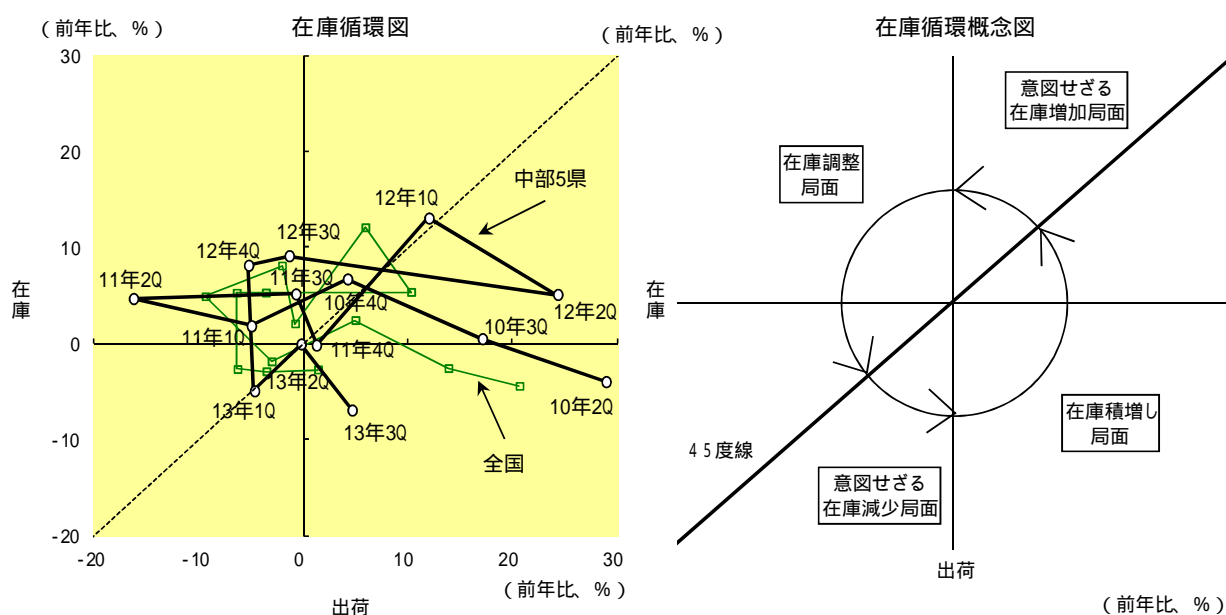
業種別にみると、自動車（前月比+0.9%）、自動車部品（同+2.4%）、航空機部品（同+15.6%）などの輸送機械（同+1.6%）が押し上げ要因となった。スマートフォン向けが好調だった電子部品・デバイス（同+18.3%）、自動車向けも多いプラスチック製品（同+2.2%）、一般機械（同+3.0%）もそれぞれ増加した。



7月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は前年比 - 8.4%と3ヶ月ぶりに減少した。国内受注(同 - 8.4%)は2ヶ月ぶり、海外受注(同 - 9.3%)は3ヶ月ぶりに減少した。米国向け(同 - 10.8%)が2ヶ月ぶりに減少したほか、アジア向け(同 - 9.9%)も2ヶ月連続で減少した。欧州向け(同 + 13.8%)は増加した。

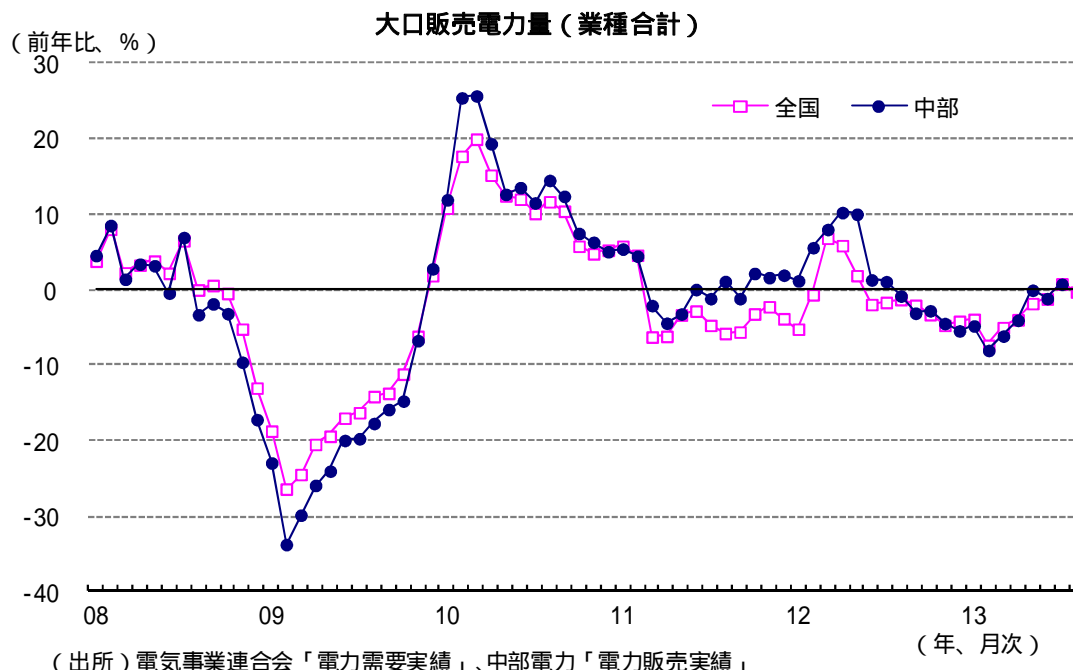


7月の中部5県の出荷は、輸送機械や電子部品・デバイスなどを中心に前月比 + 2.2%と2ヶ月ぶりに増加した。在庫は、主力の輸送機械で減少したが、需要の弱さを背景に電子部品・デバイスや鉄鋼などで増加し、7月は同 + 0.2%となった。在庫水準が依然として高い業種もあるが、製造業全体では在庫調整圧力は薄らいでいる。



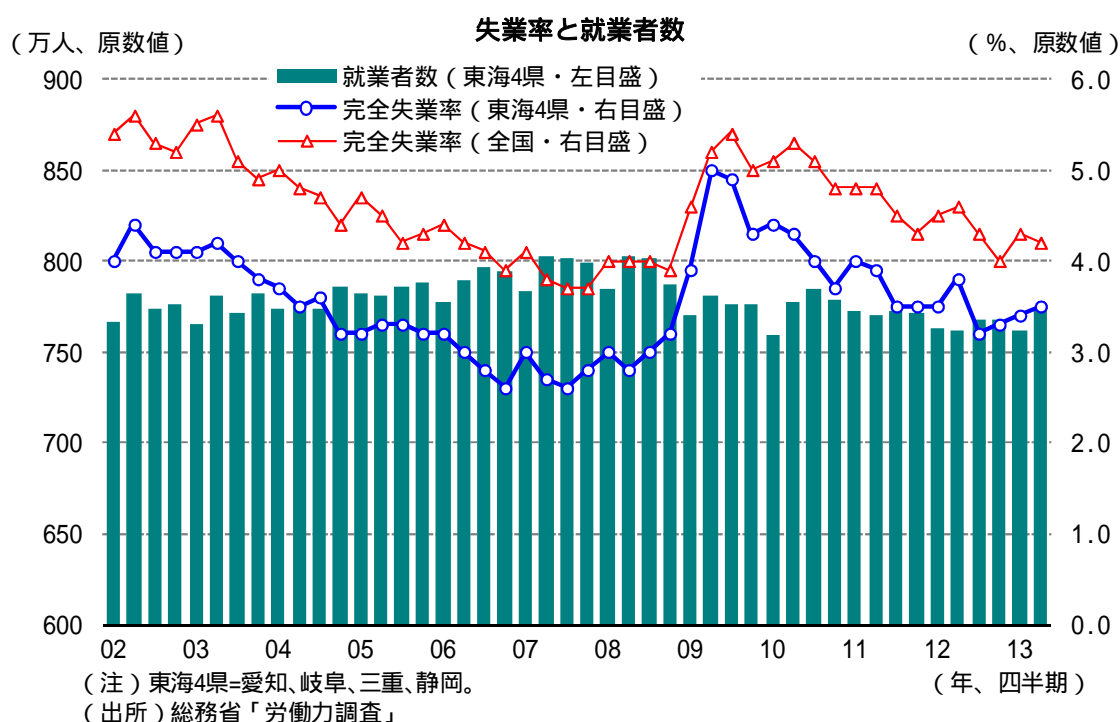
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
(注3) 直近13年2Qの出荷は4、5月平均、在庫は5月の前年比
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

7月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、自動車部品等の増産により機械工業向けが同+2.8%と2ヶ月ぶりに増加したことが寄与し、前年比+0.7%と12ヶ月ぶりに増加した。鉄鋼業向けは同-7.5%と12ヶ月連続で減少した。鉄鋼業での減少基調は、昨年から自家発電の稼働を強化していることが影響したとみられる。また、前年より気温が高く、工場での冷房使用も増加した。

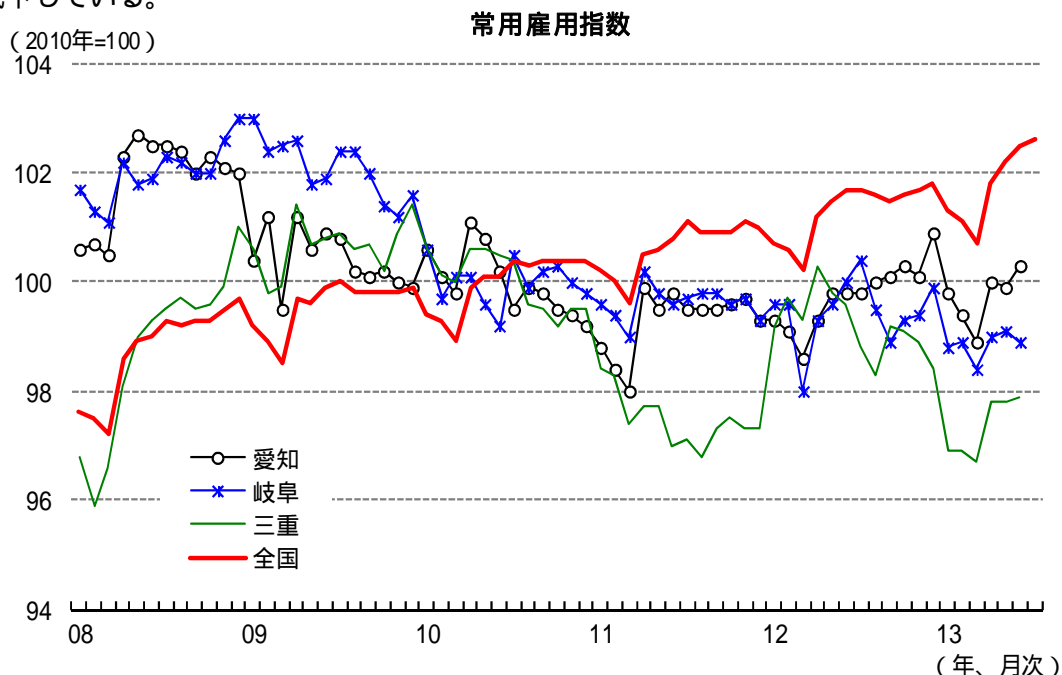


3. 雇用 ～横ばい圏で推移

2013年4～6月期の東海4県の完全失業率は3.5%（前年差-0.3%ポイント）と全国（4.2%）と比べて低水準で推移している。一方、同時期の就業者数は前年差12万人の増加となっている。有効求人倍率は年初に頭打ちとなったものの、3月以降は再び持ち直している。しかし、常用雇用指数は全国に比べて依然として弱い動きが続いている。

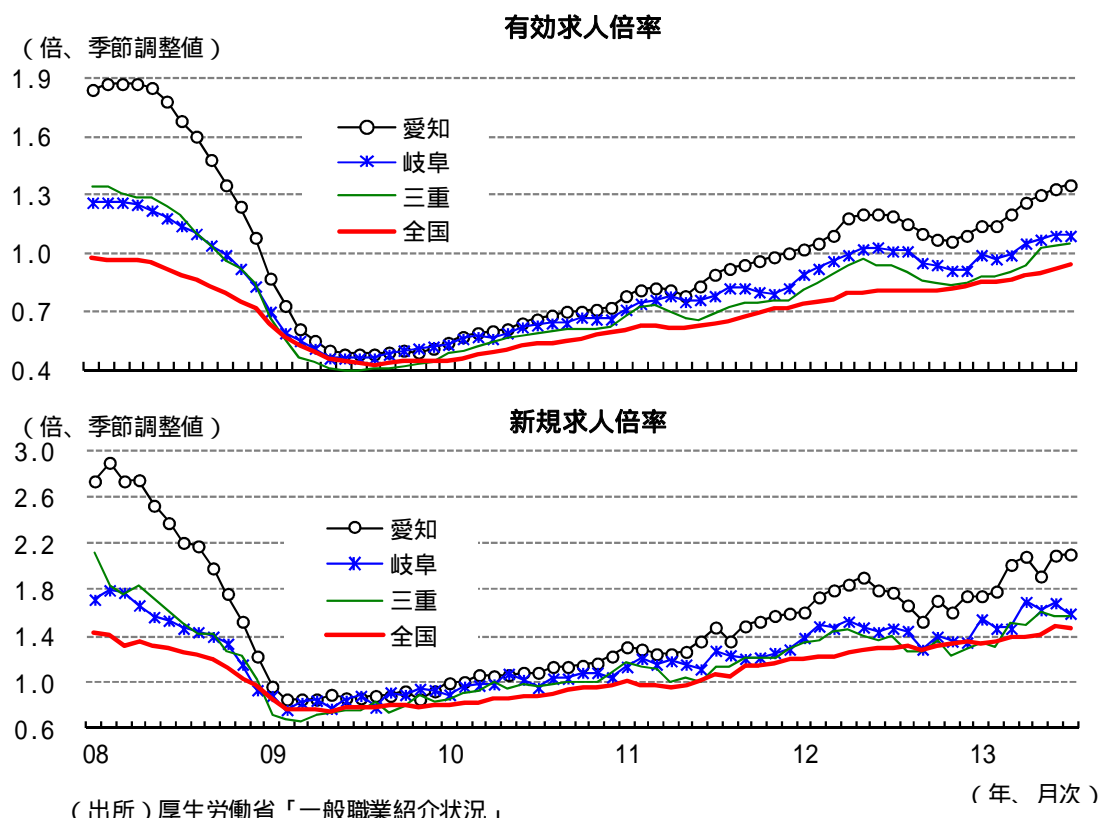


6月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県は前年比+0.5%と上昇したものの、全国（同+0.8%）に比べて弱い動きが続いている。岐阜県は同-1.1%と3ヶ月連続で低下し、三重県は同-1.7%と6ヶ月連続で低下している。



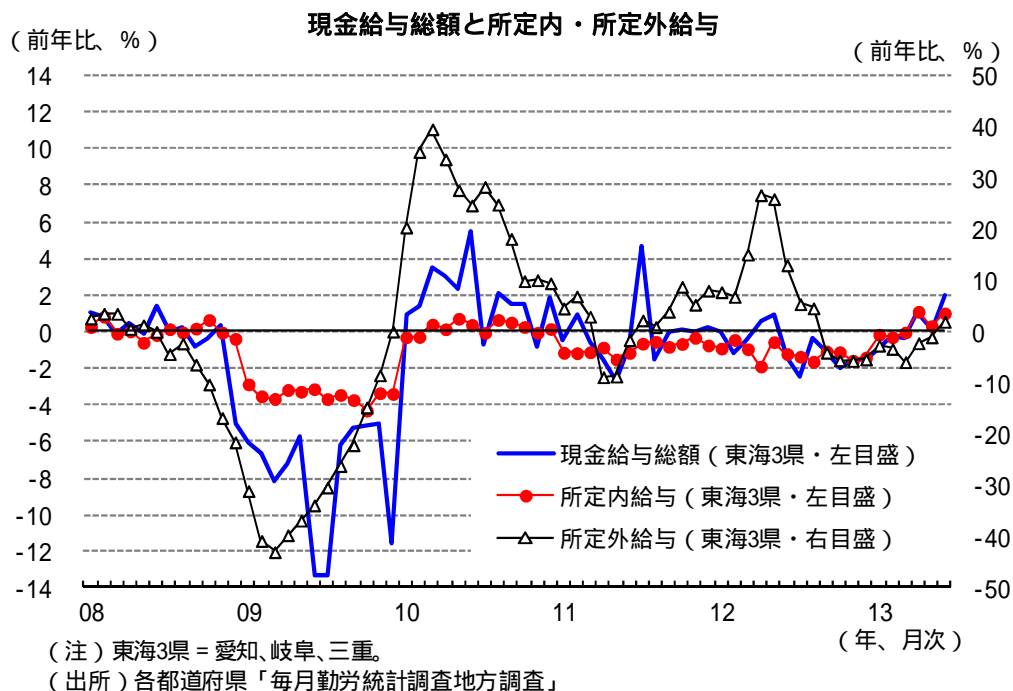
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、各都道府県「毎月勤労統計調査地方調査」

7月の東海3県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知県が自動車など製造業を中心に5ヶ月連続で改善し1.35倍となった。三重県は1.05倍と5ヶ月連続で改善、岐阜県は1.09倍と横ばいだった。新規求人倍率（同）は、愛知県が2.11倍と2ヶ月連続で改善、岐阜県が1.60倍と2ヶ月ぶりに悪化、三重県は1.58倍と横ばいだった。愛知の新規求人数（原数値）は、前年同月比21.8%増となった。

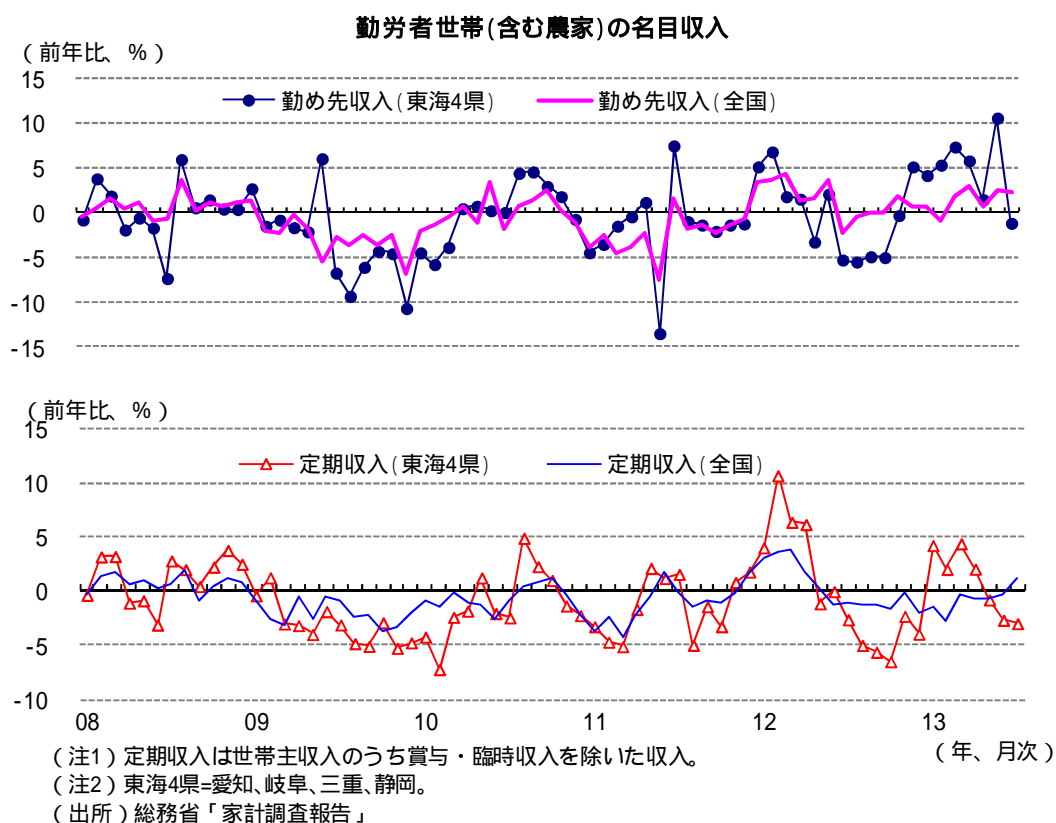


4. 賃金 ～緩やかに持ち直している

6月の一人当たり現金給与総額は、前年比+1.9%と増加し、3ヶ月連続のプラスとなった。所定内給与は同+1.0%と3ヶ月連続で増加し、所定外給与も同+2.0%と10ヶ月ぶりに増加に転じた。一方で、企業の人件費抑制姿勢は依然として根強く、足元で自動車の生産も水準を低下させており、今後、賃金の持ち直しが頭打ちとなる可能性も高い。

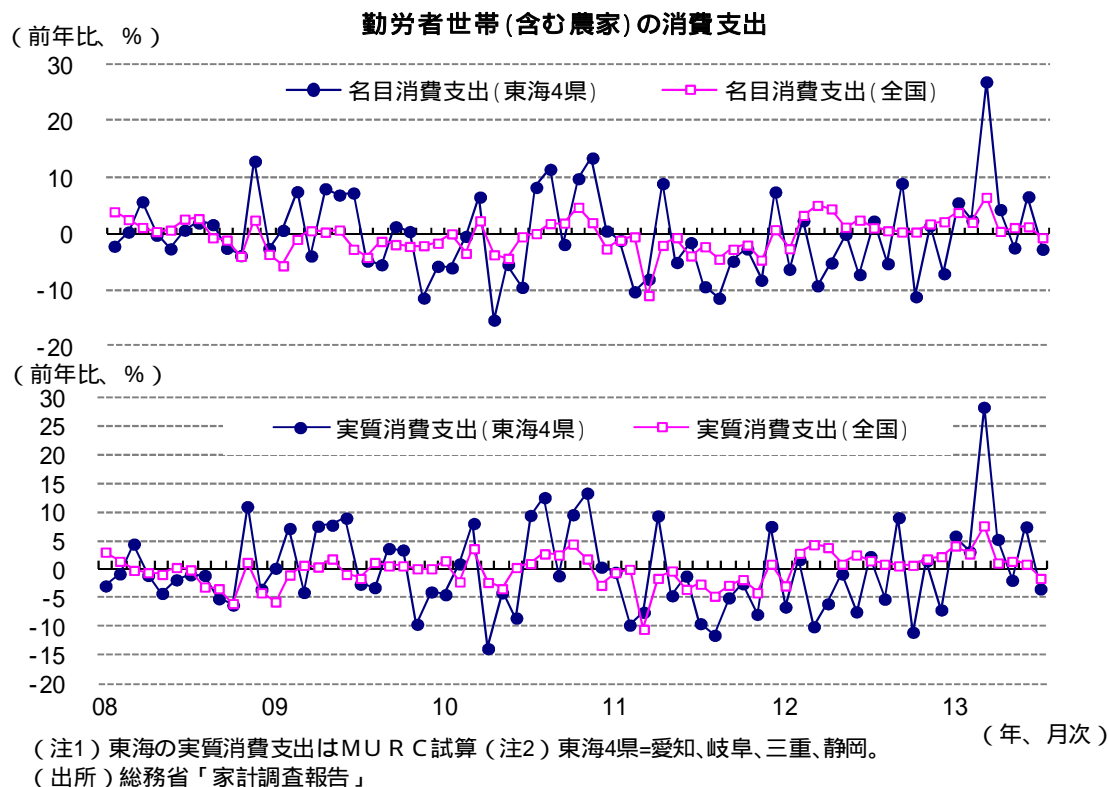


家計調査によると、7月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比-1.1%と8ヶ月ぶりに減少した。7月の定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)も前年比-3.0%と3ヶ月連続で減少した。

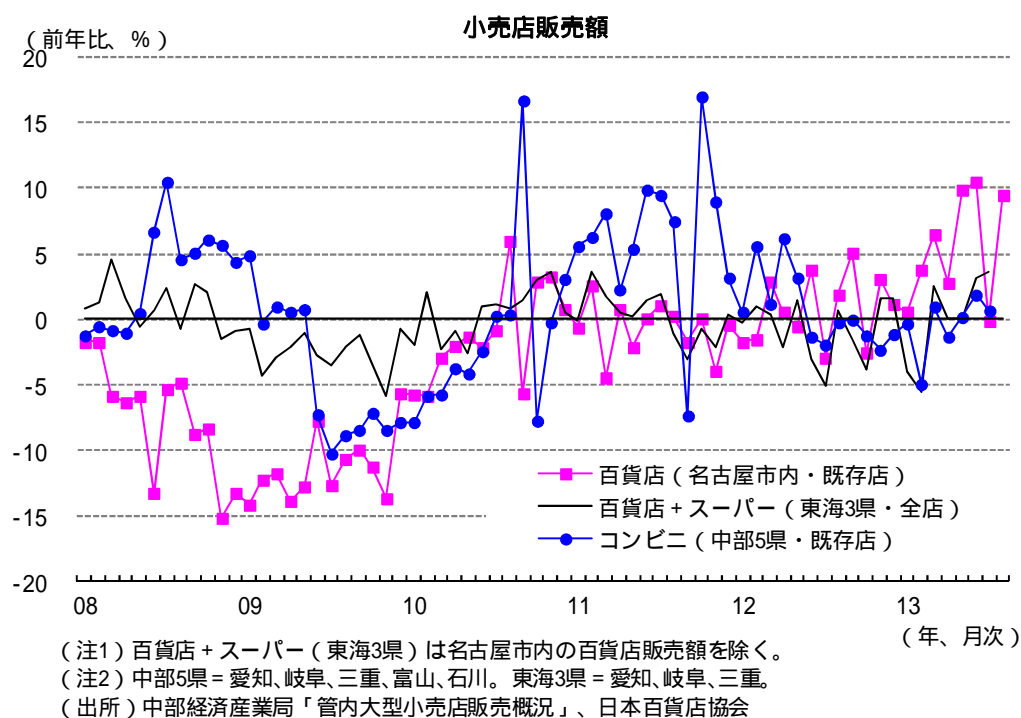


5. 個人消費 ～緩やかに持ち直している

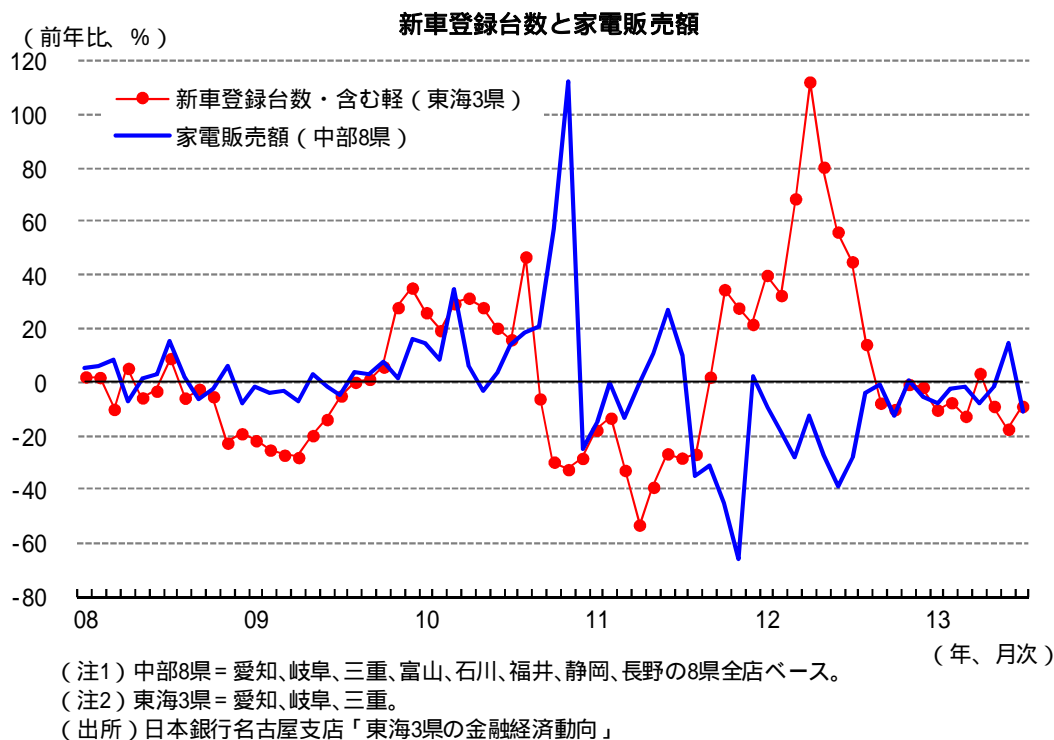
7月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は、前年比 - 2.8%と2ヶ月ぶりに減少した。消費者マインドの改善が一服したことに加え、百貨店の夏のセール前倒しの反動減が影響したとみられる。先行きは、持ち直し基調で推移すると見込まれるが、しだいに頭打ちとなる懸念もある。



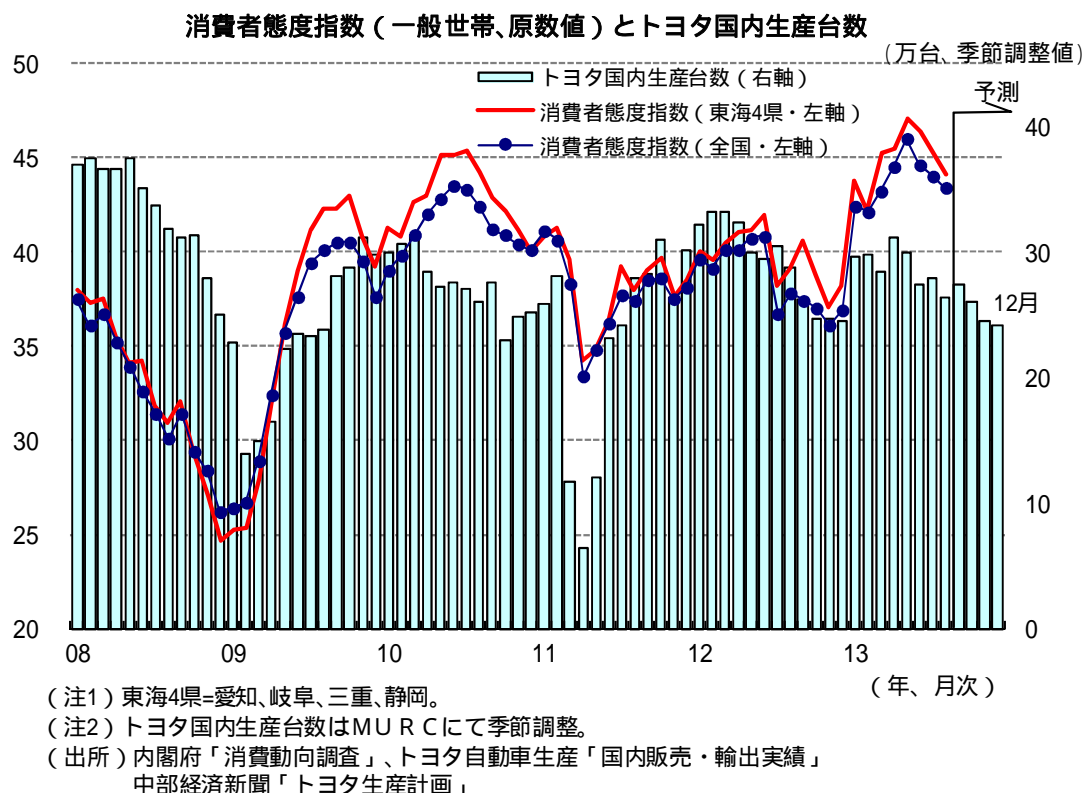
8月の名古屋市内の百貨店販売額は前年比 + 9.5%と2ヶ月ぶりに増加した。猛暑の影響で夏物セール品が引き続き売れているほか、高級時計や宝飾品、海外ブランド品が3割前後も伸びており、売上を下支えしている。また、7月の東海3県の大型小売店（百貨店 + スーパー）の販売額は同 + 3.8%と2ヶ月連続で増加し、中部5県のコンビニ販売額は同 + 0.7%と3ヶ月連続で増加した。



7月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比 - 8.9%と3ヶ月連続で減少した。ハイブリッド車やコンパクトカーの販売は堅調だが、度重なる買い替え支援策により需要を先食いした影響が出ている。一方、7月の中部8県の家電販売額は、猛暑によりエアコン販売が好調だったものの、テレビ販売の不振が長期化しており、前年比 - 10.9%と減少した。

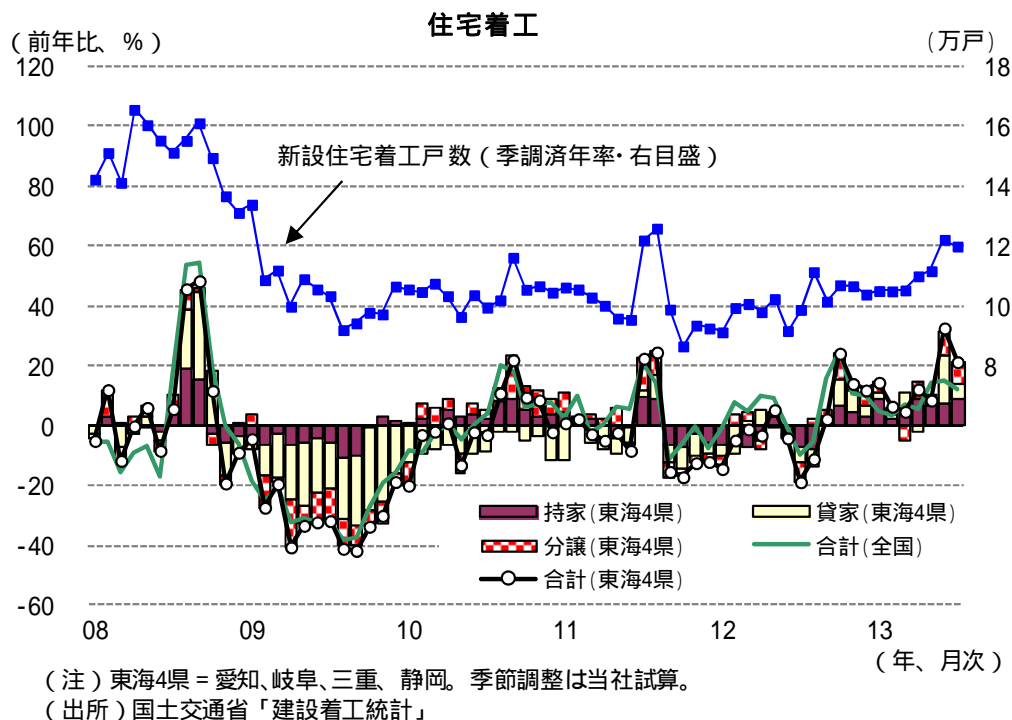


消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、8月が前月比 - 1.1ポイントとなり3ヶ月連続で低下した。8月は平均株価が低調だったことに加え、トヨタの国内生産台数もやや減少したため、東海の消費者マインドも低下傾向となっている。



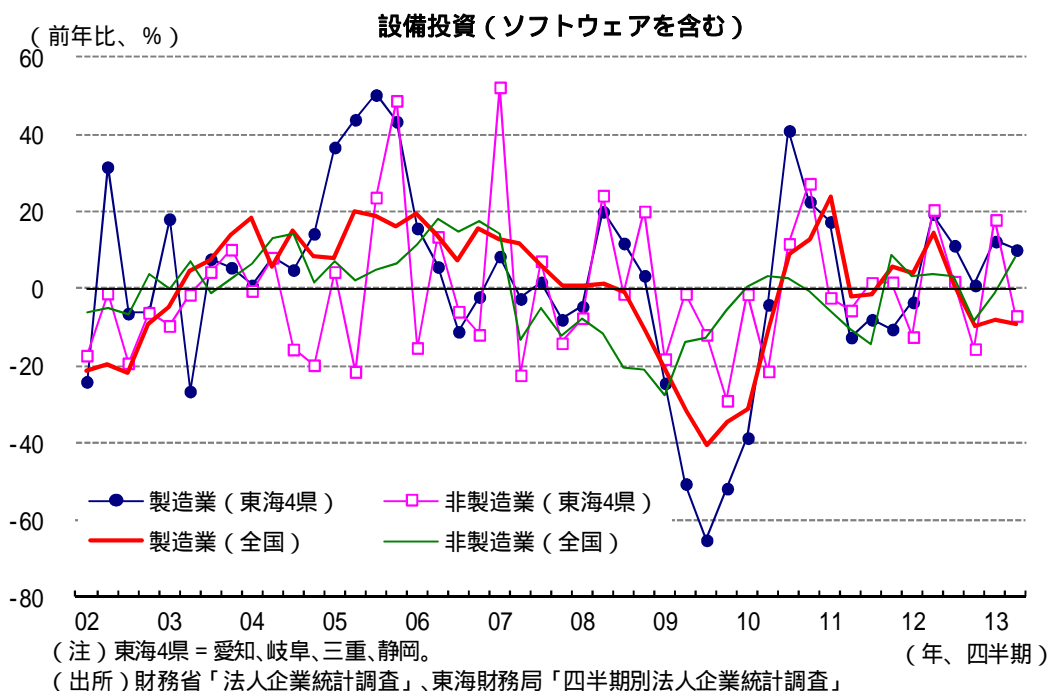
6. 住宅投資 ～持ち直している

7月の東海4県の住宅着工戸数は、前月比 - 1.8%と5ヶ月ぶりの減少となった。前年比では+21.4%の10,209戸と大きく増加しており11ヶ月連続のプラスとなった。利用関係別の寄与度では、持家が+8.6%と最も高く、分譲(+7.2%)貸家(+5.4%)も着実に増加に寄与している。今後も、消費税増税前の戸建ての持家や分譲の駆け込み需要が予想され、アパートなど貸家の着工増加も見込まれる。

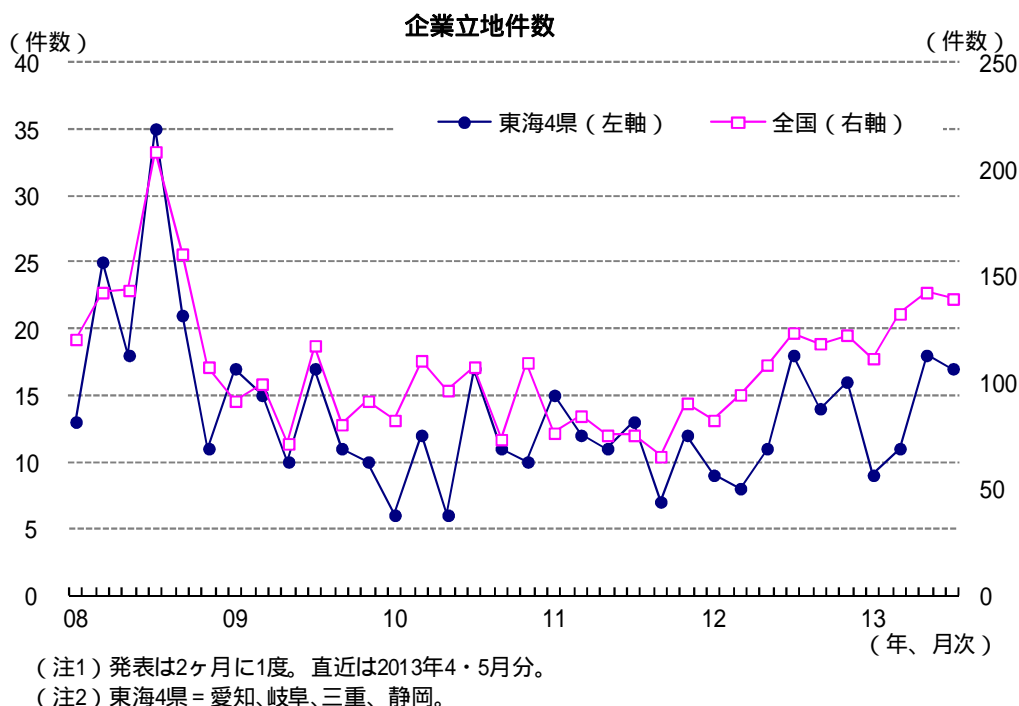


7. 設備投資 ～増加が一服している

2013年4～6月期の東海4県の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+1.3%と2四半期連続で増加したものの、増加幅は前期1～3月期(+15.1%)から大きく縮小した。製造業の設備投資は前年比+10.1%と5四半期連続で増加したものの、非製造業は前年比-7.0%と減少した。全国は非製造業の設備投資を中心に増加しているが、東海では製造業が全国より強い動きとなっている。

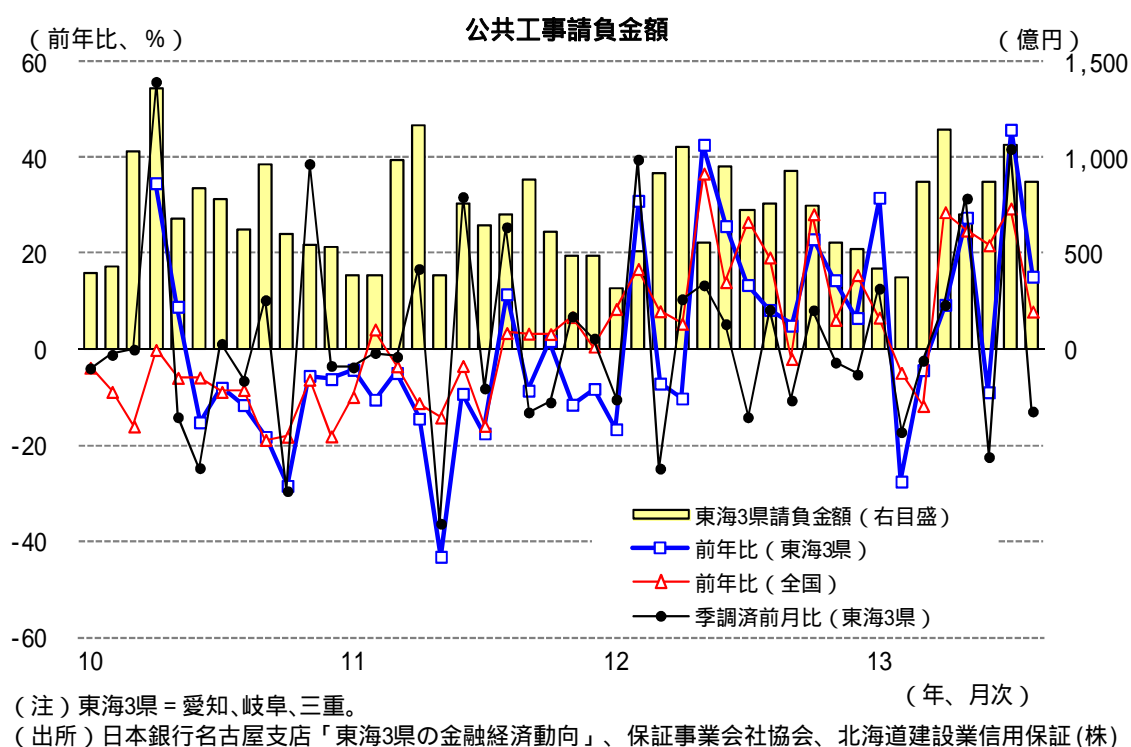


2013年6月・7月の東海4県の企業立地件数は17件と、前期（18件）及び前年同期（18件）と比べて1件減少した。東海地域では、2012年以降、円高定着などもあり製造業を中心に全国と比べて企業立地件数が伸び悩んでいたが、足元では増加基調に転じてきている。



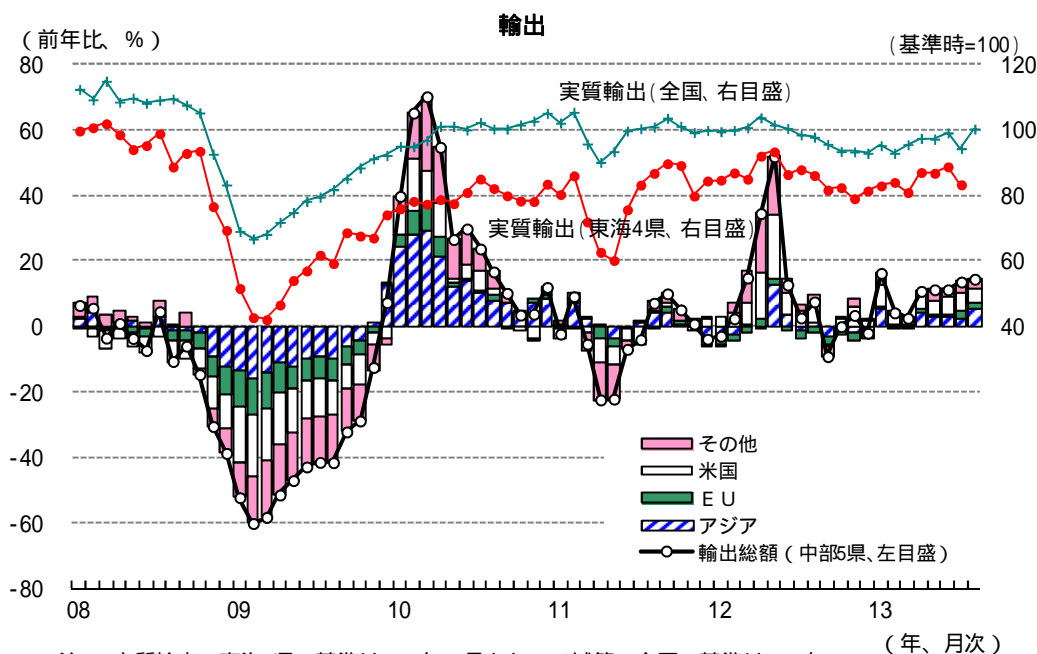
8. 公共投資 ～ 増加基調で推移

8月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 + 15.2%の871億円と前月と比べると伸び率は縮小したもの増加している。発注者別では国が前年比 + 21.7%と4ヶ月連続で増加し、地方も同 + 13.0%と2ヶ月連続で増加した。季調済み前月比では - 12.9%と2ヶ月ぶりに減少した。東海3県では災害復旧及び防災対策工事に加え、国の補正予算の執行に伴う緊急経済対策に係る工事が増加基調となっている。



9. 輸出入 ～輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい

7月の実質輸出（季調済）は、前月比 - 6.3%と2ヶ月ぶりに減少したものの、増加傾向が続いている。8月の名古屋税関管内の輸出額は前年比 + 14.3%と8ヶ月連続で増加した。米国向けが同 + 19.0%と11ヶ月連続、中国向け（同 + 22.7%）を含むアジア向けが同 + 13.7%と8ヶ月連続で増加し、EU向けも同 + 13.9%と増加した。今後も、世界経済の回復とともに緩やかな持ち直しが続くと予想される。

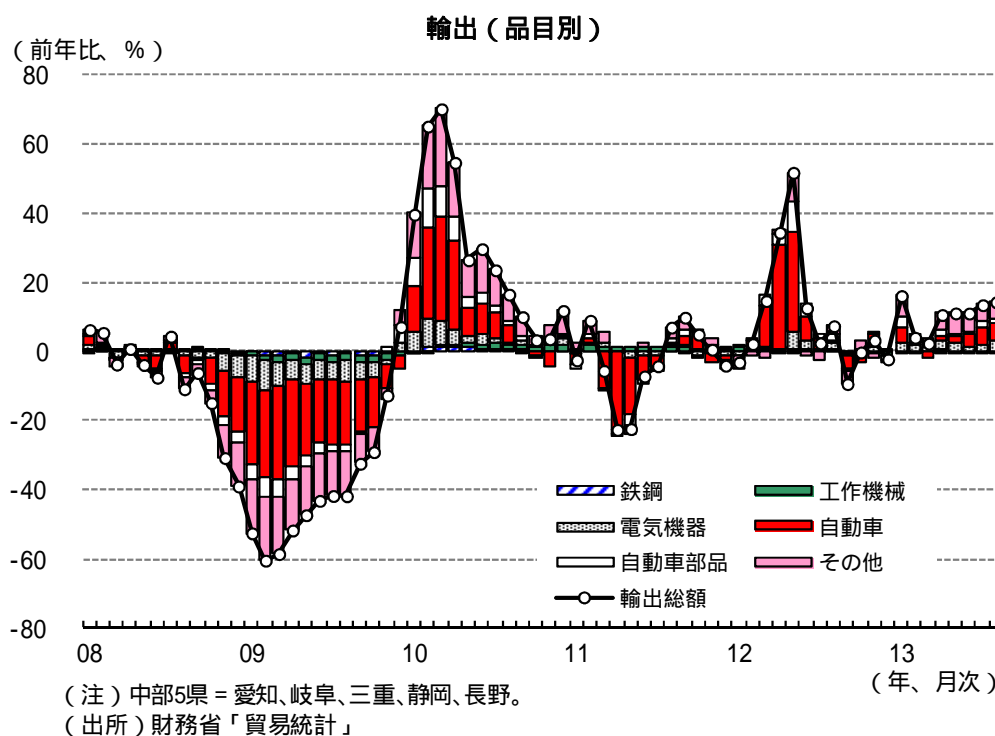


(注1) 実質輸出 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。

(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

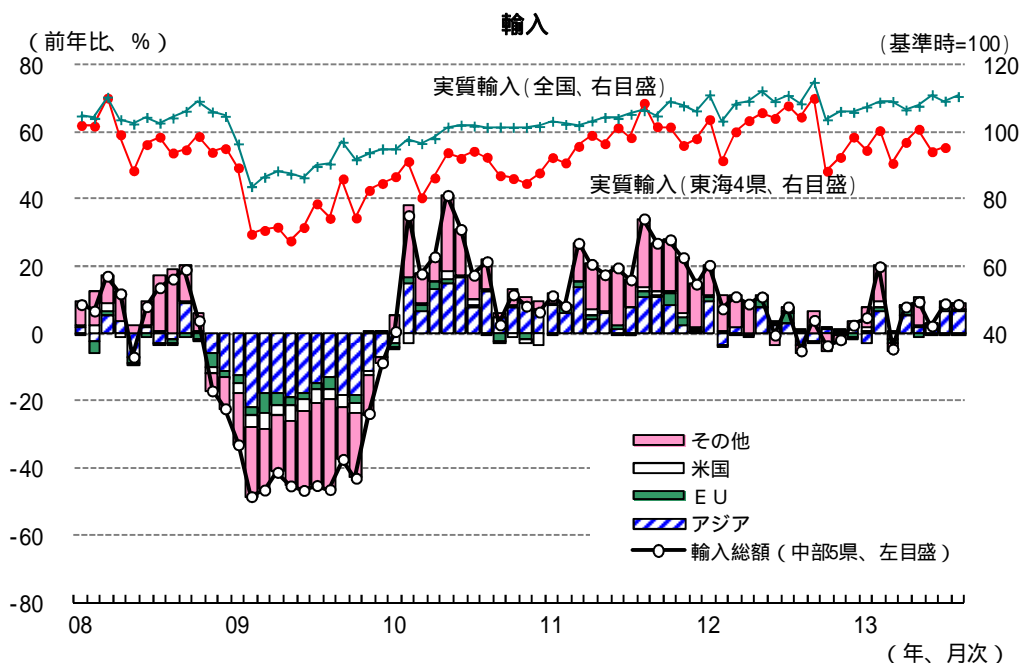
8月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車（前年比 + 18.6%）や自動車部品（同 + 13.6%）の増加が寄与し全体をけん引したほか、鉄鋼（同 + 6.5%）も2ヶ月連続で増加した。工作機械（同 - 4.5%）は2ヶ月連続で減少した。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」

7月の実質輸入（季調済）は前月比+1.3%と2ヶ月ぶりに増加した。昨年10月の地球温暖化対策税の導入前の駆け込み輸入の反動により減少した後は、変動しながらも総じて横ばい圏の動きになっている。8月の名古屋税関管内の輸入額は前年比+8.7%と5ヶ月連続で増加した。今後も為替相場や資源相場の影響はあるものの、実質輸入は横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



(注1) 実質輸入 = 東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。

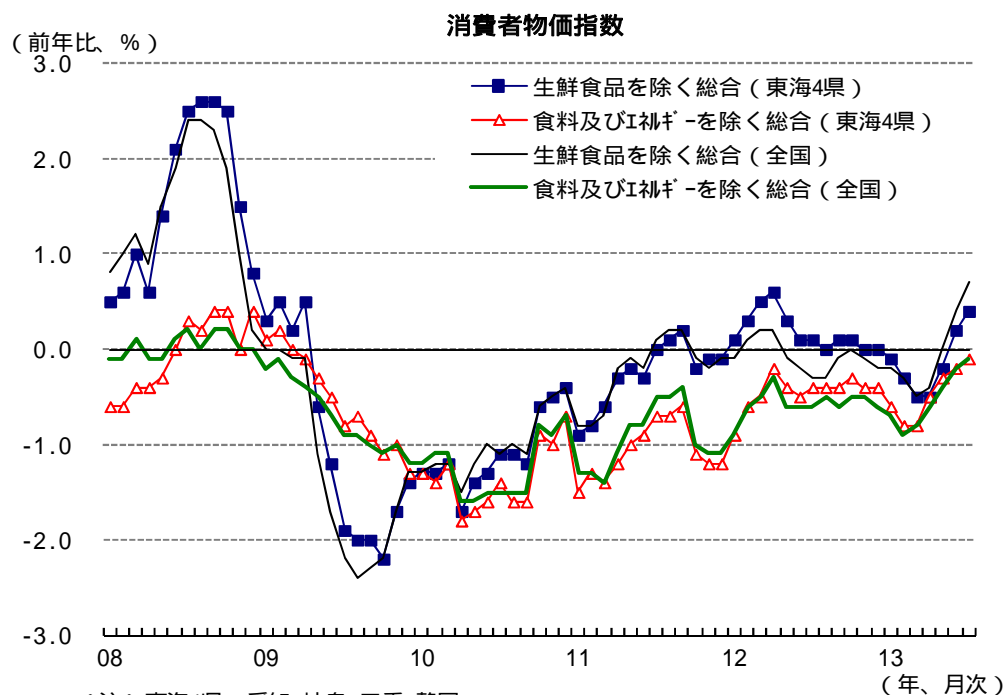
(注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」

日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

10. 物価 ~ 消費者物価は緩やかに上昇

7月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で、前年比+0.4%と2ヶ月連続でプラスとなった。電気・ガス料金などが上昇し、家電製品や日用品などの下落幅が縮小した。食料・エネルギーを除く総合では同-0.1%と低下幅が縮小した。今後は、輸入物価の上昇に加え、8月以降も、食品や電気・ガス料金などの値上げが予定され、物価の緩やかな上昇が見込まれる。

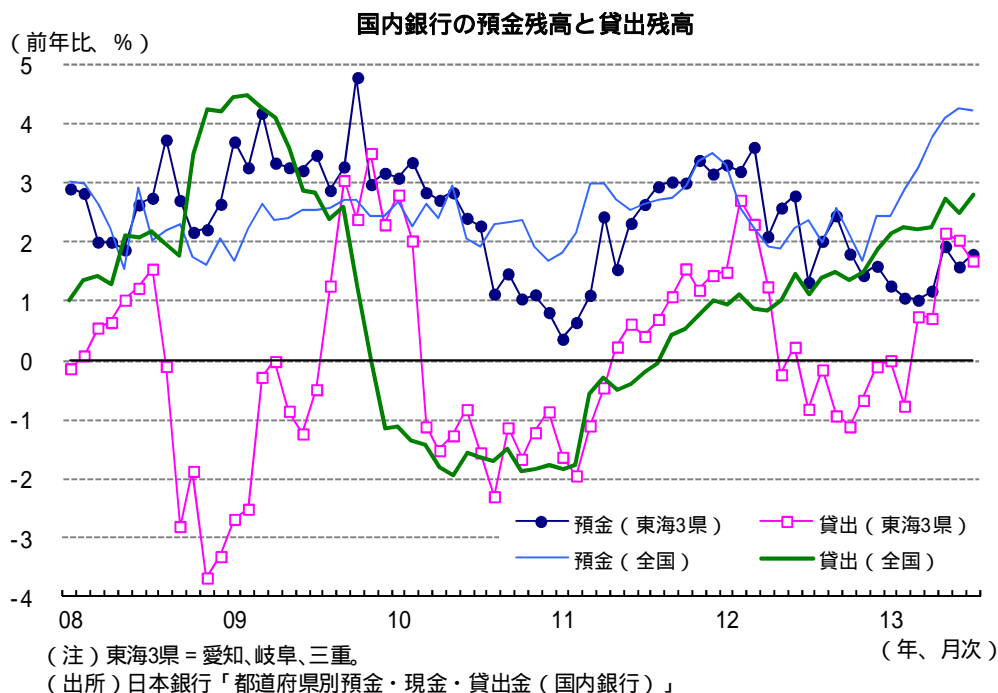


(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。

(出所) 総務省「消費者物価指数」

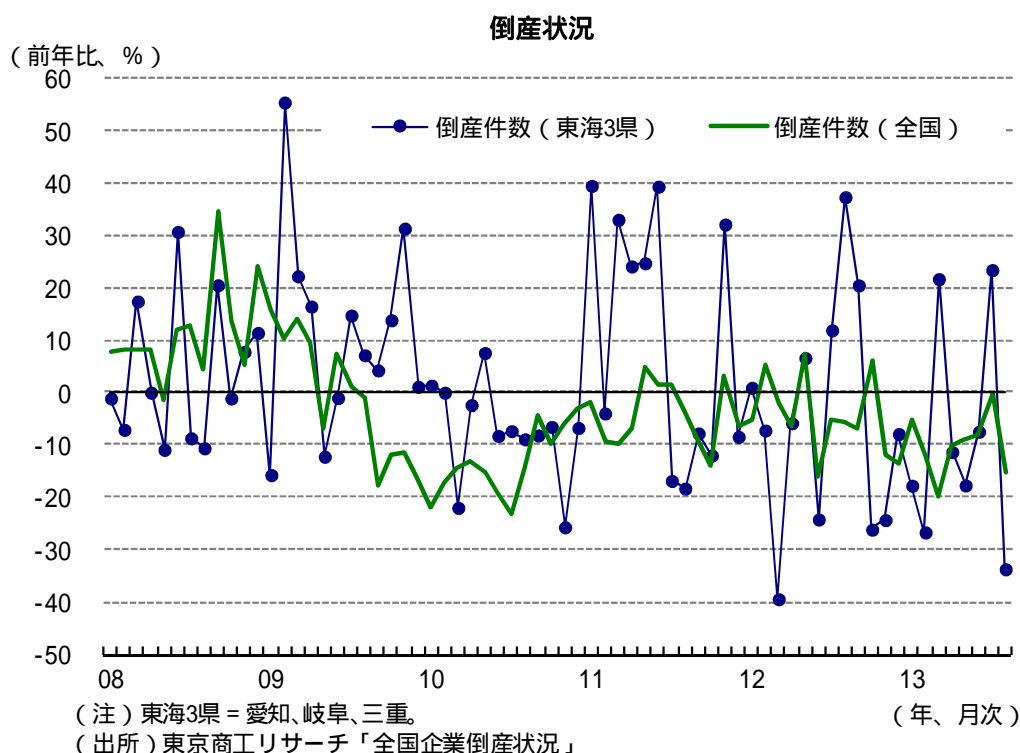
11. 金融 ～預金、貸出ともに増加

7月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は、企業が手元資金を取り崩しているものの、個人預金が堅調に推移し、前年比+1.8%と増加した。一方、貸出残高（国内銀行ベース）は同+1.7%と、自動車生産拡大による運転資金需要の増加に加え、一部企業でのM & A関連の大口貸出が寄与して5ヶ月連続で増加した。今後は生産減に伴い、自動車関連の運転資金需要が弱まってくる可能性もある。

































12. 倒産 ～倒産件数、負債総額ともに減少

8月の東海3県の倒産件数は、前年比-33.7%の61件と2ヶ月ぶりに前年を下回った。愛知県（同-35.9%）、岐阜県（前年比-14.3%）、三重県（同-42.9%）と3県ともに減少した。8月の東海3県の負債総額は、同-60.6%の70億円と3ヶ月ぶりに減少した。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		↗	輸出	全国	→		↗
	東海	→		→		東海	→		↗
	関西	↗		↗		関西	↗		↗
個人消費	全国	↗		↗	輸入	全国	→		↗
	東海	↗		→		東海	→		→
	関西	↗		↗		関西	→		→
住宅投資	全国	↗		↗	生産	全国	↗		↗
	東海	↗		↗		東海	↘		→
	関西	↗		↗		関西	↗		↗
設備投資	全国	→		↗	雇用	全国	↗		↗
	東海	→		→		東海	→		→
	関西	↘		→		関西	↗		↗
公共投資	全国	↗		↗	賃金	全国	→		→
	東海	↗		↗		東海	↗		→
	関西	↗		↗		関西	↘		→



：晴れ



：薄日



：曇り



：小雨



：雨

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

3. 全国は9月3日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		8月のコメント	9月のコメント
1．景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直している	持ち直しが一服している
	関西	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している
2．生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	減少している	減少している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
3．雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している
4．賃金	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	弱含んでいる	弱含んでいる
5．個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
6．住宅投資	全国	増加している	増加している
	東海	持ち直している	持ち直している
	関西	緩やかに増加している	緩やかに増加している
7．設備投資	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	増加している	増加が一服している
	関西	減少している	減少している
8．公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加基調で推移	増加基調で推移
	関西	増加している	増加している
9．輸出入	全国	輸出は持ち直している、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい
	東海	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい
	関西	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい	輸出は持ち直しの動き、輸入は横ばい
10．物価	全国	国内企業物価、消費者物価とも緩やかに上昇	国内企業物価は上昇、消費者物価は緩やかに上昇
	東海	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
	関西	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
11．金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12．倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は減少、負債総額は増加

（注）シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目（11.金融、12.倒産を除く）

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が 改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。